

キャリア教育全体計画

●キャリア教育の意義等(H23中教審答申より)
 ○キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育である。
 ○キャリア発達とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程である。
 ○キャリア教育の視点から学校の教育活動を幅広く見直すことで、教育課程の改善が促進される。
 ●本校におけるキャリア教育の推進
 ○児童生徒一人一人のニーズや特性等に応じてキャリア発達を支援し、卒業後の自立を促進するとともに、生涯を通じてより豊かに生活するための「生きる力」を育む。
 ○本校におけるキャリア発達とは、社会の中で自分の役割を理解し、周りの人との関わりを大切にしながら、自分らしい生き方を実現していく過程である。
 ○キャリア教育の視点から本校の教育活動を幅広く見直すことで、教育課程(特に「身に付けさせたいカマトリクス」)の改善を図る。

学校教育目標
 児童生徒の命と人権を尊重し、一人一人の教育的ニーズや発達段階等に応じたきめ細かな指導と学習指導要領に基づく適切な教育活動を推進することにより、日々の生活の中で「生きる喜び」を感じさせながら、**生涯を通じて豊かに生活するために必要な「生きる力」**を育む。

●児童生徒の実態や本校の特色等
 ○肢体不自由のある小学部1年生から高等部3年生までの児童生徒約120名が在籍している。
 年々、児童生徒の障害の重度・重複化が進み、医療的ケアの必要な児童生徒も在籍している。
 ○学習上・生活上の困難の程度が幅広いため、準ずる教育、下学年代替、知的代替など、児童生徒の実態に合わせて四つの教育課程を編成している。
 ○創立57年目を迎え、卒業生は800名を超えている。高等部卒業後は、生活介護事業所から福祉的就労、進学など幅広い進路ニーズがある。
 ○長崎県の中央部に位置し、寄宿舎やスクールバスがあり、児童生徒の居住地域は広域である。
 ○地域の学校との交流及び共同学習や地域の施設を活用した体験学習、生涯を通じて豊かに生活するための障害者スポーツや文化・芸術活動に力を入れている。

PLAN

めざす児童生徒像
 ○心身ともに健康で、たくましく生きる児童生徒
 ○思いやりの心もち、心豊かに生活する児童生徒
 ○**夢や願いに向けて挑戦し、社会に貢献する児童生徒**

<小学部教育目標>
 小学部の教育課程に基づく教育活動を推進し、児童一人一人の可能性を最大限に引き出しながら、学校や家庭でより豊かに生活するために必要な知識・技能・態度を育む。

<中学部教育目標>
 中学部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の能力や意欲を最大限に高めながら、学校や地域でより豊かに生活するために必要な知識・技能・態度を育む。

<高等部教育目標>
 高等部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の個性や能力を最大限に生かしながら、より豊かな社会生活を主体的に営む上で必要な知識・技能・態度を育む。

キャリア教育を通して育成すべき基礎的・汎用的能力である「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」をフィルタとして整理した『身に付けさせたいカマトリクス』(次頁以降参照)において各部段階で踏まえておく事項を確認

キャリア教育の推進に向けた各部の重点目標

<小学部>
 様々な教育活動を通して児童の興味関心を広げる。

<中学部>
 自ら周りの人や環境に関わろうとする態度を育て、自己理解・自己選択・自己決定の力を高める。

<高等部>
 生徒が生涯を通じて取り組める活動を見出し、他者と関わりながらより豊かな生活を営もうとする態度を育てる。

DO

キャリア教育の推進に向けた各教科等における指導内容

<各教科>
 ●小学部
 国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語(外国語活動)
 ●中学部
 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、外国語、技術・家庭、職業・家庭
 ●高等部
 国語、地理歴史、公民、社会、数学、理科、保健体育、芸術、音楽、美術、家庭、職業、情報、外国語、学校設定教科
 各教科の年間計画において、キャリア教育を通して育成すべき基礎的・汎用的能力との関連を明らかにする。

<特別の教科 道徳>
 ●自分自身に関すること
 ・自主、自律、自由と責任
 ・節度、節制
 ・向上心、個性の伸長
 ・希望と勇気、克己と強い意志
 ●人との関わりに関すること
 ・思いやり、感謝
 ・友情、信頼
 ・相互理解、寛容
 ●集団や社会との関わりに関すること
 ・遵法精神、公德心
 ・公正、公平、社会正義
 ・社会参画、公共の精神
 ・勤労
 ・よりよい学校生活、集団生活の充実
 ●生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
 ・感動、畏敬の念
 ・よりよく生きる喜び

<総合的な学習/探求の時間>
 ・国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
 ・地域や学校の特色に応じた課題
 ・生徒の興味・関心に基づく課題
 ・職業や自己の将来に関する課題(社会体験学習、職業体験学習、特別実習)

<特別活動>
 ●学級活動
 ・学級や学校における生活づくりへの参画
 ・日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
 ・一人一人のキャリア形成と自己実現
 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用/社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成/主体的な進路の選択と将来設計
 ●児童生徒会活動
 ・組織づくりと計画や運営
 ・学校行事への協力
 ・ボランティア活動などの社会参画
 ●学校行事
 ・儀式的行事
 ・文化的行事
 ・健康安全・体育的行事
 ・旅行・集団宿泊的行事
 ・勤労生産・奉仕的行事

<自立活動>
 ・健康の保持
 ・心理的な安定
 ・人間関係の形成
 ・環境の把握
 ・身体の動き
 ・コミュニケーション
 特別支援学校の学習指導要領等で示す自立活動の「内容」は、各教科等のようにそのすべてを取り扱うものではなく、個々の児童生徒の実態に応じて必要な項目を選定して取り扱うものである。

CHECK

キャリア教育の推進に係る評価

<校内>・授業での学習評価(適時:全児童生徒:授業評価シート等)
 ・教育課程編成に向けた振り返り(10月:教職員:各部の学習グループ別による協議)
 ・学校評価(12~1月:児童生徒、保護者、教職員:アンケート)
 <校外>・交流及び共同学習の事後聞き取り(適時:交流及び共同学習を実施した児童生徒:聞き取りシート)
 ・職場体験及び社会体験学習での評価(適時:中学部及び高等部生徒:面談、評価票)
 ・学校評議委員会(2月:地域や関係機関等:報告、協議)
 ・卒業後の現状や学校への要望の聞き取り(隔年の6月:高等部卒業生及びその保護者:アンケート)

ACTION

改善策の検討方法

※教育課程の編成や検討と連動させ、大幅な見直しは学習指導要領改訂ごとに実施
 ○「身に付けさせたいカマトリクス」:隔年夏季休業中~年度末 → 部会、教育課程検討委員会
 ○「キャリア教育の推進に向けた各部の重点目標」:毎年3月半ば → 部会、運営委員会
 ○「各教科等における指導内容」:毎年12~1月 → 各部での年間指導計画検討(新たな「キャリア教育の推進に向けた各部の重点目標」に対応した修正は4月以降適宜)

キャリア教育の推進に向けた組織や取組等

<計画と評価・改善>
 ・進路指導委員会
 ・教育課程検討委員会

<保護者との連携>
 ・学校評価委員会
 ・進路面談(進路指導部)
 ・部懇談(部主事)

<地域との連携>
 ・学校評議委員会
 ・共生社会推進委員会
 ・諫早市特別支援教育連携協議会(教育支援部)
 ・文化的コンクール等への出品(国語科、美術科等)
 ・スポーツ大会等への出場(保健体育科)
 ・事業所等見学(進路指導部)

<各部間の連携>
 ・部主事会
 ・教務主任会
 ・自立活動専任会
 ・特別支援教育コーディネーター会
 ・進路指導部会

<校内研修>
 ・研究推進委員会
 研究部
 教育支援部
 進路指導部
 自立活動部